社会福祉法人イエス団賀川記念館　機関紙『ボランティア』

ボランティア Volunteer

Vol.138

第４回作文コンクール表彰式の様子

ボランティア　第138号

発　行　2025年7月31日
発行所　社会福祉法人イエス団賀川記念館
発行者　馬場一郎

社会福祉法人イエス団賀川記念館
〒651-0076　神戸市中央区吾妻通5-2-20
Tel　078-221-3627　Fax　078-221-0810
E-mail　kagawakinenkan@jesusband.jp
HP　http://core100.net

賛助会費・寄附金のお願い

賀川記念館の事業は皆様によって支えられています。

賛助会費・寄附金を下さった方には寄附控除制度が適用されます。

賛助会費	寄附金
【個人】　一口　1,000円より	何円からでも可能
【団体】　一口 10,000 円より	

振込先
【ゆうちょ銀行】口座番号：01140-8-3721　社会福祉法人イエス団賀川記念館

賀川記念館は以下の事業を行っています。

① 地域福祉事業（天国屋カフェ／外国にルーツをもつ子どもの学習支援教室はいず）
② 福祉教育事業（ミュージアム／総合研究所）
③ 多機能型児童発達支援賀川記念館くじらぐも

二〇二五年度　賀川記念館の事業とその目的

賀川記念館は今、大きく分けて二つの事業を行っています。一つは**地域福祉事業**です。「制度」では解決できない、地域の福祉課題を拾い上げその課題に対しての取り組みです。吾妻地域福祉ネットワーク会議で出された意見を吸い上げて開設した「はいず」（外国にルーツをもつ子どもたちの学習支援教室）。日本に来て日本語がわからないまま小学校に入り、日本の教科学習についていけない、ついていけないから学校に行くのがしんどい。そんな子どもたちの学習の場、そして居場所としての機能を持ち、継続してきました。

そして二〇〇九年の賀川記念館建て替え時に準備され、二〇一〇年から始まった天国屋カフェ（一九一〇年賀川豊彦が栄養のある食事を安価で地域のみなさんに提供しようと考え開店した一膳飯天国屋の百年目の再興）。「生きづらさを抱えた方たちの居場所」をコンセプトに展開してきました。大きな規模ではできませんが小さな集まりができ、疲れた方たちが集い、少し元気になって出かけてくれています。この二本柱を中心に地域の福祉課題にチャレンジしてきました。

二つ目は**福祉教育事業**です。二〇〇九年に建て替えた賀川記念館はミュージアムを持ち、賀川豊彦の精神と実践を現代に蘇らせてきました。二〇二〇年度からは神戸市の小学校四年生の教科書（副読本）に賀川豊彦の行ったことが一二ページにわたって掲載され、その後たくさんの小学生の賀川記念館への来館、また小学校への出前授業を行ってきました。五年を経て多くの小学生に賀川豊彦という人をお伝えし、担任の先生たち、保護者の皆さんにも興味を持って賀川記念館の見学に来ていただきました。さらに建て替え時から、賀川豊彦を起源とする多くの法人や団体の皆さんから見学や講演の依頼があり、賀川豊彦の精神と実践をお伝えしてきました。

二〇〇九年賀川豊彦献身一〇〇年記念事業から、一六年が経とうとしています。私たちは賀川豊彦の精神と実践を現代だからこそ伝えたい。その理念からの実践を継続していきたいと思っています。賀川記念館は第二種社会福祉事業（社会福祉法に規定）である隣保事業です。しかし民間の隣保館には、国、地方公共団体からの運営費は一切ありません。私たちが賀川豊彦の理念を継承し、地域福祉を行い、福祉教育を行っていくのも皆さんの賛助会費や寄附金が大きな財源となっています。私たちの仕事を継続していく人材の雇用もままなりません。しかしそんな中でも、多くのボランティの皆さんの力をお借りして、地域の皆さんといっしょに賀川記念館の仕事を継続していきたいと願っています。どうぞ私たちの活動に興味を持ち、これからも応援をしてもらえたら幸いです。（馬場一郎）

【2024 年度　賛助会費／寄附金報告】　＊賛助会費、寄附金含む（事業指定寄附含む）

個人	568 件（述べ件数）	1,339,940 円
団体	45 件（述べ件数）	3,326,546 円
合計	572 件（述べ件数）	4,666,486 円

皆様のご支援に感謝申し上げます。続けてご支援をいただけるよう、魅力的な賀川記念館を目指していきます。また、オンライン決済などでの寄附についても引き続き検討していきます。良いアイディア等がありましたらご教示いただけたら幸いです。

二〇二四年度　事業の振り返り

隣保事業

●天国屋カフェ

◆値上げ

原材料の高騰から、心苦しくも飲み物代の値上げをしました。ランチメニューに関しては、もうしばらく現状維持することにしました。スタッフで話し合いを続け、「安価で栄養価の高いものを提供したい」という賀川豊彦の思いを引き継いでいきたいということになりました。

◆ナイトカフェについて

ナイトカフェは三ヶ月に一回のペースで開催することができました。

【天国屋ナイトカフェの様子】

コロナ禍以前のようなステージは計画することができませんでしたが、飛び入り参加で出演できるようにしました（ストリートピアノ方式と呼んでいます）。コーラスやピアノ、フルート、アイリッシュ音楽など数組が出演してくれました。「また演奏したい」という嬉しい言葉も聞くことができました。ぜひ多くの方に出演していただきたいと思っています。二〇二五年度も継続しますので、ぜひスタッフまでお声がけください

◆様々な方の働き場として

二〇二四年度も近隣の就労支援B型事業所の就労先として継続できました。また、「はいず」で日本語を学ぶ保護者が日本語の勉強するために、天国屋カフェのボランティアとして参加してくれることになりました。新しい展開を嬉しく思っています。地域福祉の拠点として今後も様々な人の働き場でありたいと願っています。

◆一五周年記念企画について

【天国屋ひろば、トーキョーコーヒー開催状況】

日にち	イベント名	内容
2024 年 6 月 29 日	しのぶ no 音楽会	ピアノコンサート
2024 年 7 月 6 日	『違いを持つ人々との共存を聖書から学ぶ』	講演会
2024 年 9 月 7 日	てるちゃんのメモリアルキルト作りプロジェクト	メモリアルキルト
2024 年 9 月 21 日	あまちゃカルテット～甘く軽やかな心に憧れて～	フルートコンサート
2024 年 10 月 24 日	トーキョーコーヒー神戸元町	
2025 年 1 月 30 日	トーキョーコーヒー神戸元町	

二〇二五年には天国屋カフェが一五周年を迎えました。合わせて四つの一五周年記念企画を実施します。①設立から現在までの記録まとめ、②記念講演会、③今後のビジョン立案、④フィリピンツアー（コーヒー豆をめぐる学習ツアー）です。詳細は随時、案内をさせていただきます。ぜひ皆様にご参加いただきたいと思っています。

◆天国屋ひろば

天国屋カフェでは「天国屋ひろば」というイベントを開催しています。これは、賀川記念館を様々な人に利用してもらい、つながりをつくりたいという思いから企画しているものです。今後も緩やかに続けていきたいと思います。合わせて、「トーキョーコーヒー神戸元町」（＊）の会場としても利用していただいています。

＊「トーキョーコーヒー」とは、登校拒否のアナグラム（文字を入れ替えてつくる言葉遊び）。全国で学校に行かない事を選択する約三〇万人の子どもたちのアクションを受けて、「問題は子どもの不登校ではなく、大人の無理解」という視点から教育を考え、学ぶためのムーブメントで日本全国に拠点を持っている。

賀川記念館はいずの体制（2024 年度）

＜参加者＞
参加人数：31 名（小学生 20 名、中学生 2 名、高校生 3 名、保護者：6 名）
ルーツ別：中国、アフガニスタン、ネパール、インド、インドネシア
フィリピン、ベトナム

＜スタッフ＞
職員：1 名
ボランティア：30 名（内 運営委員：4 名）
社会人（リタイア含む）、大学院生、大学生、高校生

●外国にルーツをもつ子どもの学習支援　はいず

◆体制について

二〇二四年度より、新たな運営体制での運営を行なうことになりました。職員とボランティアからなる「運営委員会」をつくり、（月一回開催）、子どもの状況やボランティアの状況の共有、日々の運営についての協議をしています。

神戸市立中央小学校からの紹介が二件ありました。中央小学校との連携が強くなってきたことを感じています。

また、他の団体からの見学や日本語教育についての情報交換を行うことができました。

◆課題として

中国にルーツをもつ子どもが多く在籍していますが、新たに、ネパール、ベトナムなど新しいルーツの子どもが増え、一緒に勉強をしています。新しく来日し、日本語を一から学ぶ子どもが増えています。日本語を教えるためには、専門的な知識も必要です。専門性の確保が課題です。二〇二五年度の計画として。他機関と協働しながらボランティア研修の準備をしています。現在は小学生中心のクラスですが、中学生、高校生、大人のニーズもあります。どのように対応していくことができるのか、課題となっています。

合わせて運営費（人件費含む）の課題が続いています。安定して使用できる財源の確保が必要です。二〇二四年度のはじめに「はいず

↓はいずボランティアの情報交換会

への寄附のお願い」の手紙をみなさまにお配りしました。多くの皆様に応えていただき、たくさんのご寄附をいただきました。また神戸市社会福祉協議会共同募金様、

外国にルーツをもつ子どもの学習支援はいず　収支報告　（単位　円）

			内訳
収入			
	月謝	439,000	（週1回：1,000円／月、週2回：2,000円／月）
	助成金	370,000	「豚まん募金」（神戸市中央区社会福祉協議会共同募金：27万円） ＊株式会社老祥記様の寄付による助成金 「唐川民間社会福祉団体事業助成」（神戸市社会福祉協議会：10万円）
	寄附金（個人）	185,100	36件
	寄附金（団体）	85,453	日本キリスト教保育所同盟様、「クリスマス献金」友愛幼児園様 株式会社司商会様、社会福祉法人頌栄会頌栄保育園様
	雑収入	69,544	賀川記念館マルシェ分配金（47,727円）
	収入合計	1,149,097	
支出			
	支出合計	860,460	教材費、ボランティア交通費等含む　＊人件費、会館管理費除く
	収支差額	288,637	

神戸市社会福祉協議会「唐川民間社会福祉団体事業助成金」から助成金を頂戴しました。

今後も多くの人に本活動を知っていただき、支援いただけるように広報活動なども活発にしていきたいと思います。今後もお支えいただけたら幸いです。

これまで以上に近隣学校をはじめ、関係団体との連携を強め、子どもと家庭を支えていきたいと願っています。

●多機能型児童発達支援　賀川記念館くじらぐも

◆体制

二〇二四年度開始時は児童登録数が「児童発達支援」（未就学児クラス）が六名、放課後等デイサービス（就学児クラス）が二二名でしたが、最終的に「児童発達支援」一一名、「放課後等デイサービス」が二四名まで増えました。現在は三五名の子どもたちと毎日を過ごしています。

利用する子どもたちが増えたことで、より安全な運営ができる環境づくりと持続可能な運営が必要になっています。子どもたちを支える職員の勤務環境や運営実態を見直しつつ、運営課題の整理を行なっています。

二〇二五年度は移設して三年になります。職員の異動もありました。これまで以上に地域の方々に支えられていることを感じつつ、職員で協力しながら運営を進めていきたいと思います。賀川記念館との連携も強化しているところです。経理や運営等のバックアップをしたり資格を持った職員が療育のヘルプに入ったりしています。賀川記念館とつながる施設として地域に根差した運営を行っていきたいと思います。

◆行事

夏の長期休暇では、例年の恒例行事となった夏のＢＢＱとゲームイベントを開催しました。いつもと違う、のびのびとした子どもたちの姿を見つつ、職員も一緒に楽しむことができました。また冬にはクリスマス会もしています。こちらも定例行事となっています。キリスト教主義の法人らしく、二〇二四年度もキャンドルサービス（ロウソクを持って礼拝）を実施しました。厳かな雰囲気の中で子どもたちも緊張しつつ、楽しんでいる様子が見受けられました。神戸イエス団教会の牧師と賀川記念館職員の協力の元、無事に行うことができました。二〇二五年度も様々な行事を計画していきたいと思います。

◆専門性を持った施設として

二〇二五年度の目標として、児童発達支援事業の強化をしたいと思っています。近隣にはイエス団関連の認定こども園や保育園、児童発達支援・放課後等デイサービス「くっく」があります。療育の専門知識や技術を持った施設として関わっていきたいと思います。イエス団内施設同士が連携をしながら、地域の子どもたちの育ちを支えていきたいと思います。

福祉教育事業

ひとりの学びを進めたいと思います。

●講演会・見学者

二〇二四年度は、述べ七五件の団体に講演会、研修会を実施することができました。労働組合関係、生活協同組合関係、社会福祉関係、人権関係団体、大学など様々な方に向けて話をすることができました。また、生活協同組合コープこうべの幹部選抜理念研修「CK賀川豊彦塾」の研修（二グループ三回）や、こくみん共済COOP関東推進本部からの研修も継続して受けることができました。

二〇二五年度も様々な団体に対する講演会、研修会ができるように職員一人に向けて学習講演会を行うことができました。語り部の学びの場である語り部研修は五回行いました（内容は前号に記載）。個別に来館する先生もおられ、関心の高さが窺い知れます。二〇二四年度から

●学習講演会

二〇二〇年から続く小学校四年生向けの「学習講演会」も継続して開催することができました。二〇二四年度は、四名の語り部と協力しながら、二六校一、六六〇名

【2024 年度講演会・研修・学習講演会実績】

4/12	パルシステム共済連	講演	11/8	こくみん共済	講演
4/13	コープ自然派	講演	11/8	同志社大学韓国キリスト教	講演
4/26	平和講演	講演	11/14	摂津三田教会婦人部	講演
4/26	デンソー労組	講演	11/15	こくみん共済	講演
5/7	コープこうべユニオン	講演	11/15	玉津第一小学校	学習講演会
5/8	和歌山県生協連	講演	11/18	名谷小学校	学習講演会
5/9	第1地区くらしの助け合いの会	講演	11/20	ひょうご部落解放・人権研究所	講演
5/16	大阪よどがわ市民生協	講演	11/21	神戸製鋼加古川製鉄所労組	講演
5/19	こくみん共済愛知県推進本部	講演	11/21	トヨタ労組	講演
5/21	JEC連合セメント部会	講演	11/22	桜の宮小学校	学習講演会
5/21	全トヨタ労連	講演	11/22	菅の台小学校	学習講演会
6/4	コープこうべユニオン	講演	11/22	藍那小学校	学習講演会
6/27	明石友愛地区同盟	講演	11/29	京都生活協同組合	講演
6/29	凸版印刷	講演	11/30	コープみやざき	講演
6/30	コープこうべ　職員研修	講演	11/30	大学生協事業連関西北陸地区	講演
7/6	大日本印刷グループ労働組合連合会	講演	12/1	静岡県労福協	講演
7/10	CK賀川豊彦塾	研修	12/2	垂水小学校	学習講演会
7/10	KC吹田（仮）	講演	12/2	千代ヶ丘小学校	学習講演会
7/12	共栄火災海上	講演	12/3	池田小学校	学習講演会
7/16	CK賀川豊彦塾	研修	12/3	高丸小学校	学習講演会
7/18	共栄火災海上	講演	12/4	ひょうご部落解放・人権研究所	講演
7/20	連合静岡地協	講演	12/4	北五葉小学校	学習講演会
7/24	CK賀川豊彦塾	研修	12/4	櫨谷小学校	学習講演会
7/25	ＵＡゼンセン（多様性協同局）	講演	12/5	乙木小学校	学習講演会
7/31	CK賀川豊彦塾	研修	12/6	東須磨小学校	学習講演会
7/31	園田女子大学シニア	講演	12/9	井吹西小学校	学習講演会
8/4	関西学院大学神学部	講演	12/13	頌栄短期大学専攻科	講演
8/7	CK賀川豊彦塾	研修	12/13	若草小学校	学習講演会
8/9	CK賀川豊彦塾	研修	12/13	押部谷小学校	学習講演会
8/16	全国キリスト教学校人権教育セミナー	講演	12/14	全矢崎化工労働組合	講演
8/27	加古川東高校OB	講演	12/18	多井畑小学校	学習講演会
9/6	連合兵庫研修会	講演	12/19	本山第二小学校	学習講演会
9/14	キリスト教学校教育同盟全国聖書科研究集会	講演	12/19	兵庫大開小学校	学習講演会
9/17	滋賀県生協連	講演	12/19	宮本小学校	学習講演会
9/18	こくみん共済	講演	1/11	三木市立総合隣保館	講演
9/20	こくみん共済	講演	1/15	こくみん共済愛知推進本部	講演
9/24	第7地区本部所属長研修	講演	1/16	みやぎ生協元理事	講演
9/26	神戸市中央区役所	講演	1/21	こくみん共済愛知推進本部	講演
9/27	なぎさ小学校	学習講演会	1/23	成徳小学校	学習講演会
10/4	こくみん共済	講演	1/24	平野小学校	学習講演会
10/9	こくみん共済	講演	2/13	こくみん共済愛知推進本部	講演
10/14	こくみん共済	講演	2/16	ひょうご部落解放人権研究所	講演
10/25	こくみん共済	講演	2/27	奈良県生協連	講演
10/30	こくみん共済	講演	2/28	とちぎコープ	講演
10/31	中央小学校	学習講演会	2/28	大池小学校	学習講演会
10/31	中央小学校	学習講演会	2/28	箕谷小学校	学習講演会
11/1	こくみん共済	講演	3/1	連合大阪	講演
11/1	こくみん共済愛知推進本部	講演	3/12	チョンチャン教会	講演
11/4	こくみん共済	講演	3/13	ひょうご部落人権研究所	講演
11/5	JA静岡中央会教育部	講演	3/21	芦屋川カレッジ	講演
11/7	こまどり会	講演	3/29	鳴門友愛会	講演
11/8	こくみん共済	講演			

は、神戸市教育委員会「ゲストティーチャー制度」に採択していただきました。

第四回賀川豊彦作文コンクールを実施しました。一八校四八六名からの応募があり、その中から三賞一五名の表彰を行いました。どの作品も素晴らしいものでした。常設展示として、受賞作品をミュージアムに展示しています。来館者の方からも好評です。

二〇二五度も小学校の学習講演会と第五回賀川豊彦作文コンクール開催に向けて準備を進めています。

【賀川豊彦召天 65 年記念集会】

2025 年 4 月 25 日（土）賀川豊彦召天 65 年記念集会を行いました。この召天記念集会は毎年行われています。賀川豊彦の働きを覚える大切な集会となっています。今年は神戸 YMCA 総主事の小澤昌甲（おざわまさき）さんに来ていただきお話をお聞きしました。2025 年は阪神淡路大震災から 30 年です。

当時小澤さんは神戸の長田区で救援活動に尽力されました。ご自身の阪神淡路大震災の経験、賀川豊彦の関東大震災での活動に触れられ、また現代における私たちのあり方についてお話しくださいました。

キリスト教運動をはじめ、団体、宗教、信仰の枠を超えて、幼き子ども、若者とともに歩む団体として、共に生きる社会を創る更なる「連帯」が必要だと提言くださいました。

上内鏡子牧師の聖書の話

ところが翌日の明け方、神は一匹の虫に命じてとうごまをかませたので、とうごまは枯れてしまった。日が昇ると、神は東風に命じて熱風を吹きつけさせた。また、太陽がヨナの頭上に照りつけたので、彼はすっかり弱ってしまい、死を願って言った。「生きているより、死んだ方がましです。」
ヨナ書４章７～８節

今夏は連日の猛暑で、やる気も溶けてなくなりそうです。そんな季節に最適な聖書箇所、一緒に汗をかいてしまいそうな聖句がヨナ書四章です。

ヨナは神の命を受けて、嫌々ながらも、ニネベという大都市の人々が悔い改めるように促します。その後、ヨナは日が照りつける場所から町を見下ろしていたので、神はとうごま(トウダイグサ科)を生えさせて日照りから守り、ヨナは大喜びします。ところが翌日、神は虫を遣わしてとうごまを全滅させてしまわれました。素直でないヨナは苛立ち、「死んだ方がましだ」と神に向かってわめいたのでした。

その時、神はヨナに言うのです。「一夜にして滅んだとうごまをさえ惜しんでいる。それならば、どうして私が、この大いなる都ニネベを惜しまずにいられるだろうか」と。ここで聖書は終わっていて、ヨナの反応は記されていません。

神は、どんな罪深い人々に対しても憐れみを注ぎ、新しい人生のチャンスをくださる方なのです。その愛に溢れた神を受け止めきれず、自分のことだけを考えているヨナは、四六時中、文句こそ言え、自分自身さえ受け止めることができなくなっていたのかもしれません。

あなたは、神の最後の言葉にどう応えるでしょう。ぜひヨナ書を読んでみてください。

とっておき

天国屋カフェのレシピ

キンパ（김밥）

【材料】
ごはん（200g）
韓国のり
きゅうり、にんじん、たくあん、牛肉（魚肉ソーセージでも可）
白胡麻

【作り方】
① きゅうり、人参はそれぞれ千切りで軽く塩をふり、水気を切ります。たくあん、魚肉ソーセージは８mm くらいの太さに切ります。（たくあんは千切りでも可。水気は切ってくださいね。）
② ご飯にごま油大匙半分、白ごま小さじ１，塩少々を混ぜます。
③ 巻き簀の上に、②のご飯を手前３分の２くらいに広げます。
④ 具材をのせ（彩よく！）、巻き簀を巻いてください。

ボランティアスタッフの一人が作ってくれたメニューです。中に入れる材料はお好みですが、ここでは比較的安価な材料を使っています。大判の韓国焼きのりは、最近近くのスーパーでも見かけますね。すし酢を入れないのが、日本風のりまきと違うところです。巻き簀の上にラップをひくと後片付けが楽になりますよ（い）

【編集後記】

賀川記念館では「外国にルーツをもつ子どもの学習支援」をしている。二〇一三年に地域の声から生まれた事業だ。言葉の壁、文化の壁（見えない偏見や差別も少なからずあるだろう）に挟まれ、もがき苦しむ子どもたちを支援したいという思いから始まった。今まで、少しでも子どもたちが日本で暮らしやすくなるためにと、多くのボランティアと共に活動している。支援をする中で、「違い」によるすれ違いもあり、苛立つことも少なくない。それでも、子どもたちの笑顔を見るとそんなことはどうでもよくなってしまう。「世界の共通言語は英語じゃなくて笑顔だと思う」と、ある歌手が歌っていたが、本当にそう思う。▼神戸市中央区は総人口の一〇％は外国にルーツをもつ人であるという。これからも増えるだろう。言葉も文化も習慣も違う人と、どのように「共に生きる」ことができるだろうか。賀川記念館のみではなく、多くの人と協力しながら、新たな社会づくりが求められているのかもしれない。▼イエス団のミッションステートメントには「違いを認め合う社会をつくりだす」と書いてある。分断ではなく、排外でもなく、違いを尊重しつつ、「共に生きる」社会づくりへ寄与していくことができるだろうか。（お）